

## 『凡事徹底』

鍵山秀三郎著／致知出版社

皆さんの中にも掃除が苦手、嫌いな人も多いと思います。かくいう私も掃除が大の苦手です。この本は、鍵山秀三郎というイエローハットの元社長が掃除について執筆したものです。しかし、掃除の方法について書かれたものではなく掃除という行動（凡事）を通じて人間の生き方、会社のあり方まで掘り下げ、簡単な人間哲学書となっています。著者は、整理、整頓、清潔をモットーに道路や公衆便所などの清掃活動を行い、要望があれば掃除の研修を実施しながらイエローハットという会社経営に手腕を振るわれた社長としても有名です。企業トップが誰よりも早く出勤、便器を素手で磨いて社員に使わせる、しかも三十年間、一日も休まず続けているなど、想定外の行動がメディアに取り上げられたこともありました。

掃除という一見簡単なこと、単純なことを極めていくこと、やれば誰にでもできることを徹底して行い、その中で差をつけていくことは大学生活の勉学や研究活動と大変似ていると実感いたしました。誰にでも出来ることをやっていたって、この競争社会の中で勝ち抜くことはできない、と一見矛盾しているように考えがちですが、この本の中にその答えがあります。著者は、平凡なことを非凡に努め、微差、僅差の積み重ねが大差となると説いています。

また、掃除という行為自体は単純であり「打算があったら続かない」と著者は言います。現代は、何かをやればすぐに見返りが欲しい、これをやったらどうしてくれるというという打算を持って行動する人が多いようですが、打算やすぐの見返りを求めず、続けることが大事だと思います。勉強でも直ぐに答えが分かる問題、研究では直ぐに結果が出る実験と考えがちですが、大学時代に何年もかけて研究する題材としては、直ぐに結果が出る課題が必ずしも良いとは限りません。私は学生時代は自分の課題を自分で決めて考え抜いて仮説を立て、それを検証する方法を考える。その実践と方法を習得すれば、華々しい成果が上がらなくても十分だと考えています。その際には、必ずしも自分の思った研究テーマ、研究方法で研究を実施できるとは限りません。思った方法で実践出来ない方が多いかもしれません。このようなある制約条件化で自分のベストを尽くすことも工学や技学では大変重要です。

---

本書の中で、掃除を行っているときに悪事を考える人はいないという件がありますが、自分を振り返ってみても掃除をしているときには不純なことは頭に浮かびません。本当に一生懸命に掃除をしているときは一心不乱に掃除をしています。これは、勉強や実験に集中し没頭しているときと似ています。毎日掃除をすることでそのような状態を作り上げる鍛錬をしていると考えることもできます。

著者は、本書の他にも同様な書籍を出版しており、どれを読まれても良いと思います。本書は口語体で書かれており、著者が読者に語りかけるように書かれているため読みやすくなっています。数時間で一気に読めてしまう本ですので、これから大学生活を充実したものにしたいと考えている人、自分の興味のある研究テーマについて深く掘り下げたいと考えている人にお勧めできる一冊です。

## 執筆者紹介

姫野 修司

環境・建設系准教授。専門領域は、環境工学、化学工学、分析化学。

『書名』 著者名(翻訳者名) 出版社または文庫・シリーズ名 出版年 税込価格

『凡事徹底 平凡を非凡に努める』 鍵山秀三郎著 致知出版社 1994年 1,050円

[ブックガイド目次へ](#)